

1-(2) PayPay の導入について ～ 6/1 から PayPay で納付できます ～

新型コロナウイルスの感染リスクの低減を図る
納付方法について、対人非接触型の納付機会を拡大し、キャッシュレス化を進める

1 本市の取組

- 市民の生活スタイルの多様化に対応した納付機会の拡大の必要性
 - 利用可能な市税・料金
 - 市税**…市・県民税(普通徴収)、固定資産税・都市計画税、軽自動車税(種別割)
 - 料金**…国民健康保険料(普通徴収)、介護保険料(普通徴収)、衛生手数料、水道料金、下水料金
- ※既存の納付方法は、各担当課・金融機関・コンビニ・MMK 端末設置店窓口、口座振替、スマホ決済アプリ「PayB」「LINE Pay」
- 納付方法の拡大として
 - 平成 30 年 8 月 1 日～ **PayB** (ペイビー) (利用者数約 35 万人)
 - MMK 端末設置店舗** (マルチメディアキオスク)
 - 平成 31 年 3 月 1 日～ **LINE Pay** (ラインペイ) (利用者数約 3,690 万人) が利用可能

2 PayPay による市税・料金納付サービスの開始

- 令和 2 年 6 月 1 日(月)より「PayPay」(ペイペイ)で市税・料金の納付が可能
スマホ決済アプリ PayPay は、PayPay(株)が運用 **約 2,800 万人が利用**
 - 納付者は、市税・料金の納付書に印刷されている**バーコード**を読み込み、
⇒ **簡単な操作**でいつでもどこでも納付可能
- 【事前準備】・PayPay アプリをダウンロード
・PayPay 残高へチャージ
→ アプリ内で登録した銀行口座やクレジットカード等からチャージ
- 【納付方法】

アプリ内の「スキャン」をタップ ⇒ 納付書のバーコードを読み込む
⇒ 請求内容を確認し、「支払う」をタップ ⇒ 納付完了

- ・チャージ金額が不足する場合は納付できない
 - ・一度に納付できる金額は 30 万円まで
 - ・支払方法は「PayPay 残高」のみで「クレジットカード」は選択できない
 - ・領収書は発行されない (PayPay アプリ内の取引履歴で確認が可能)
- ※軽自動車税(種別割)については、車検用納税証明書を無料で発行

- 既に印刷してあるコンビニ納付用のバーコードを読み込むため、
新たな**システム改修が不要**で、導入経費がかからない

3 利便性の向上、そしてニューノーマル(新常態)に対応

- PayPay に登録すれば、いつでもどこでも簡単な操作で納付できるため、
家にいたまま 24 時間支払い可能
- スマホ利用者** (保有率 79.2% : 若者を中心とした幅広い年齢層) の利用が見込まれる
- 金融機関やコンビニを訪れることなく納付できる**ため、
新型コロナウイルスの感染リスクを低減